

9月7日(第1日) 午前

A会場 (A201)

B会場 (A203)

セッション 15. Geofluids: 地球内部流体とその役割

コンピーナー: 岩森光(東京工業大学)・小木曾哲(京都大学)・横山哲也(東京工業大学)

9:00-9:20 1A01 (15-01 招待)

地球内部の水素・水・流体を中性子で見ると (東京大学) ○鍵裕之

9:20-9:40 1A02 (15-02 招待)

地球内部流体のトレーサーとしての希ガス: その特徴と起源について (岡山大学) ○松本拓也

9:40-10:00 1A03 (15-03 招待)

伊豆小笠原弧におけるスラブ由来物質一時空変化からの制約— (1 産業技術総合研究所・2 海洋研究開発機構・3 テキサス大学・4 国立サウザンブロン海洋研究所) ○石塚治¹・湯浅真人¹・田村芳彦²・宿野浩司²・スターンロバート³・テイラー レックス⁴

10:00-10:15 1A04 (15-04)

島弧接合部におけるスラブ起源流体の分布と挙動 (1 東京工業大学・2 産業技術総合研究所・3 海洋研究開発機構・4 北海道大学) ○中村仁美¹・岩森光¹・石塚治²・木村純一³・中川光弘⁴・宮崎隆³・高橋俊郎³・平原由香³・常青³

10:15-10:30 1A05 (15-05)

「地殻流体の化石」としての熱水性鉱床の Pb 同位体組成 (1 東京大学・2 海洋研究開発機構・3 東京工業大学) ○藤永公一郎¹・加藤泰浩¹・高谷雄太郎¹・谷水雅治²・岩森光³

10:30-10:45 1A06 (15-06)

海底熱水域硫化鉱物の U-Th 放射非平衡による年代測定 (1 東京大学・2 岡山理科大学・3 九州大学) ○中井俊一¹・サファー ユービン¹・豊田新²・石橋純一郎³

10:45-11:00 1A07 (15-07)

塩化マグネシウム水溶液と塩化カルシウム水溶液の比熱と体積に関する計算式について (兵庫教育大学) ○澁江靖弘

<休憩>

11:10-11:25 1A08 (15-08)

CO₂ フラクシングによるマグマの気泡成長・溶解過程 (東北大学) ○吉村俊平・中村美千彦

11:25-11:40 1A09 (15-09)

草津白根山山頂火口湖「水釜」の水質経年変化と火山活動との関係 (1 上智大学大学院・2 上智大学) ○西本礼香¹・井上綾¹・木川田喜一²・大井隆夫²

11:40-12:00 1A10 (15-10 招待)

ヘリウム同位体比からみた 2008 年岩手・宮城内陸地震前後の深部流体挙動 (1 大阪大学・2 東北大学) ○堀口桂香¹・中山貴史²・松田准一¹

12:00-12:15 1A11 (15-11)

付加体中の断層における地震時の流体岩石相互作用 (1 海洋研究開発機構・2 大阪大学・3 東京大学) ○石川剛志¹・廣野哲朗²・本多剛²・濱田洋平³

12:15-12:30 1A12 (15-12)

元素の化学状態分析による岩石-流体相互作用における元素移動相の推定 (1 海洋研究開発機構・2 広島大学・3 筑波大学) ○谷水雅治¹・石川剛志¹・高橋嘉夫²・丸岡照幸³

セッション 2. 放射性廃棄物と地球化学

コンピーナー: 日高洋(広島大学)・大貫敏彦(日本原子力研究開発機構)・吉田英一(名古屋大学)

10:00-10:15 1B01 (02-01)

同位体年代測定法の新第三系堆積岩中の地下水滞留年代への適用 (三菱マテリアル株式会社) ○山口耕平・河田陽介

10:15-10:30 1B02 (02-02)

地下水中のコロイド試料回収・分析手法の確立 (日本原子力研究開発機構) ○山本祐平・青才大介・水野崇

10:30-10:45 1B03 (02-03)

幌延深地層研究所における水理・地球化学特性評価技術開発の現状 (日本原子力研究開発機構) ○南條功・天野由記・岩月輝希・村上裕晃・佐々木祥人・吉川英樹

10:45-11:00 1B04 (02-04)

地下水有機物の微生物による利用性評価 (1 株式会社 IHI・2 日本原子力研究開発機構) ○福永栄¹・宮坂郁¹・吉川英樹²

11:00-11:15 1B05 (02-05)

イオン液体により蒸着した微生物起源ナノ粒子の電子顕微鏡観察 (1 日本原子力研究開発機構・2 九州大学・3 大阪大学) ○大貫敏彦¹・香西直文¹・姜明玉²・宇都宮聡²・桑畑進³

11:15-11:45 1B06 (02-06 招待)

セレン酸還元細菌による金属酸化物の還元作用とその応用 (1 芝浦工業大学・2 大阪大学) ○山下光雄¹・清和成²・惣田訓²・池田彦²

11:45-12:00 1B07 (02-07)

幌延地域における珪藻質-珪質泥岩中のヨウ素の移行挙動解明 (1 広島大学大学院・2 日本原子力研究開発機構・3 東京大学・4 学習院大学) ○嶋本洋子¹・高橋嘉夫¹・天野由記²・松崎浩之³・村松康行⁴・岩月輝希²

9月7日(第1日) 午前

C会場 (A204)

D会場 (A205)

セッション 6. 地球化学と生理学の融合: 生体プロセスの研究から地球化学へ

コンピーナー: 沢田健(北海道大学)・カ石嘉人(海洋研究開発機構)

10:00-10:20 1C01 (06-01 招待)

アミノ酸窒素同位体比に基づく海洋生態系食物網構造の解析(海洋研究開発機構) ○土屋正史・カ石嘉人・大河内直彦・高野淑識・小川奈々子・藤倉克則・吉田尊雄・喜多村稔・Dhugal J. Lindsay・藤原義弘・野牧秀隆・豊福高志・山本啓之・丸山正・和田英太郎

10:20-10:35 1C02 (06-02)

アミノ酸の窒素同位体比を用いた生物の栄養段階解析(海洋研究開発機構) ○カ石嘉人

10:35-10:50 1C03 (06-03)

アセトアルデヒドの分子内炭素同位体比のオンライン計測(1 東京工業大学・2 キリンホールディングス) ○李娜¹・山田桂太¹・服部良太²・柴田裕樹¹・吉田尚弘¹

10:50-11:05 1C04 (06-04)

古植生指標検討のための植物化石のテルペノイドバイオマーカー分析と続成過程の検討(1 北海道大学・2 新潟大学) ○中村英人¹・沢田健¹・高橋正道²

11:05-11:20 1C05 (06-05)

陸上高等植物の抵抗性高分子の植物生理学・生物地球化学的研究(北海道大学) ○沢田健・中村英人・荒井高明

11:20-11:35 1C06 (06-06)

白亜紀植物化石の抵抗性高分子を構成する分子ユニットの組成分布の多様性(1 北海道大学・2 新潟大学) ○池田慧¹・沢田健¹・高橋正道²

11:35-11:55 1C07 (06-07 招待)

環境指標として有用なハマサンゴの骨格形成機構の解明に向けて(1 東京大学大気海洋研究所・2 琉球大学熱帯生物圏研究センター・3 産業技術総合研究所・4 東京大学大学院新領域創成科学研究科) ○井上麻夕里¹・日下部誠¹・日下部郁美¹・酒井一彦²・鈴木淳³・川幡穂高⁴

セッション 12. 水圏環境地球化学

コンピーナー: 板井啓明(愛媛大学)・高橋嘉夫(広島大学)

9:00-9:15 1D01 (12-01)

淀川水系における化学成分の広域分布-主要化学成分による河川水の種類-(1 近畿大学・2 大阪市立大学・3 大阪市立自然史博物館) ○山中康平¹・中口謙¹・長谷川徹¹・冬野正史¹・益田晴恵²・中条武司³

9:15-9:30 1D02 (12-02)

多摩川における河川水・堆積物中の元素濃度分布および同位体比についての地球化学的研究(慶應義塾大学大学院) ○岡田佑輔・鹿園直建

9:30-9:45 1D03 (12-03)

玉川酸性泉水由来の有害元素、レアメタルの拡散、堆積挙動に対する玉川ダムの影響(1 慶應義塾大学・2 秋田大学・3 東北大院) ○岩根健太¹・鹿園直建¹・石山大三²・小川泰正³

9:45-10:00 1D04 (12-04)

酸性河川中でのIn, Ga, As, Pbの分別および堆積挙動に関する基礎研究(東北大学) ○梶原雅博・小川泰正・土屋範芳

10:00-10:15 1D05 (12-05)

微量元素から見る琵琶湖の湖水環境変化(1 京都大学化学研究所・2 滋賀県立大学) ○中嶋勇輔¹・清水明愛¹・宗林由樹¹・丸尾雅啓²

10:15-10:30 1D06 (12-06)

琵琶湖北湖底泥のマンガン濃集層の経時変化(1 愛媛大学・2 琵琶湖環境科学研究センター) ○板井啓明¹・早瀬大輔¹・平田佐和子¹・兵部唯香¹・熊谷道夫²・田辺信介¹

<休憩>

10:40-11:00 1D07 (12-07 招待)

ヨウ素の水圏循環に与える微生物の影響(千葉大学大学院) ○天知誠吾

11:00-11:15 1D08 (12-08)

有機物分解過程における亜鉛の影響の定量的評価と沿岸物質循環に対する寄与(1 筑波大学・2 愛媛大学) ○和田茂樹¹・鈴木聡²

11:15-11:30 1D09 (12-09)

茨城県久慈川河口域における溶存有機物の挙動に関する研究(日本原子力研究開発機構) ○坂本愛・田中幸幸・乙坂重嘉

11:30-11:45 1D10 (12-10)

天然水中のフミン物質定量法の開発とその手法を用いた分布調査例-琵琶湖を中心として-(1 神戸大学・2 兵庫県立大学・3 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) ○津田久美子¹・白井秀門¹・光岩克敏¹・北野史子²・杉山裕子²・早川和秀³・藤嶽暢英¹

11:45-12:00 1D11 (12-11)

溶存有機物特性からみた十勝堆積盆地東部の地下水水質形成((財)電力中央研究所) ○伊藤由紀・宮川公雄

12:00-12:15 1D12 (12-12)

植物プランクトンにおける残留性有機汚染物質の濃縮過程の数理モデル(1 奈良女子大学・2 愛媛大学) ○瀬戸蘭美¹・半藤逸樹²

9月7日(第1日) 午前

E会場 (A202)

セッション 5. 古気候・古環境解析の地球化学

コンピーナー: 入野智久(北海道大学)

9:00-9:15 1E01 (05-01)

享保の飢饉は、何故起きたか? : 樹木年輪同位体比から見た小氷期の東アジアにおける大気循環の特異性 (1 名古屋大学・2 北海道大学・3 信州大学・4 総合地球環境学研究所・5 島根大学) ○中塚武¹・大西啓子²・安江恒³・光谷拓実⁴・三瓶良和⁵

9:15-9:30 1E02 (05-02)

過去約 28,000 年に亘るバイカル湖柱状堆積物中の Long-chain mid-chain diols の古環境プロキシとして可能性について (1 東海大学大学院・2 名古屋大学大学院) ○下川原誠¹・西村弥亜¹・松田孝信¹・秋山信彦¹・河合崇欣²

9:30-9:45 1E03 (05-03 招待)

テフラの化学分析と化学組成データの取り扱い方法～高精度テフクロノロジーのために～ (立正大学) ○青木かおり

9:45-10:00 1E04 (05-04)

堆積物を用いた過去 30 年間の東京湾幕張沖における貧酸素水塊の評価 (1 東京大学・2 産業技術総合研究所) ○小豆川勝見¹・金井豊²・松尾基之¹

10:00-10:15 1E05 (05-05)

過去1500年間の別府湾水温変動 (1 北海道大学・2 愛媛大学) ○山本正伸¹・市川記央¹・加三千宣²

10:15-10:30 1E06 (05-06)

北西太平洋日本沖堆積物コア中の陸上植物テルペノイドバイオマーカーの起源: 古気候指標の検討 (北海道大学) ○小林まどか・沢田健

10:30-10:45 1E07 (05-07)

フェオ色素の窒素同位体比を用いた日本海の暗色層(TL1, 2 および 3)形成時の海洋表層環境復元 (1 海洋研究開発機構・2 筑波大学) ○菅寿美¹・小川奈々子¹・柏山祐一郎²・大河内直彦¹

<休憩>

11:00-11:15 1E08 (05-08)

ナノ化石量に連動した海洋堆積物の窒素炭素同位体比と水銀含有量の第四紀気候変動 (1 九州大学大学院・2 環境科学技術研究所・3 東北大学・4 秋田大学・5 国立科学博物館) ○松崎哲也¹・小島淳¹・北逸郎¹・長谷川英尚²・千代延俊³・佐藤時幸⁴・林辰弥⁵

11:15-11:30 1E09 (05-09)

白亜紀-第三紀(K-T)境界粘土層に含まれる硫化鉱物のマイクロビーム蛍光X線マッピング (1 筑波大学大学院・2 海洋研究開発機構・3 京都大学大学院) ○丸岡照幸¹・西尾嘉朗²・小木曾哲³・鈴木勝彦²

11:30-11:45 1E10 (05-10)

海洋無酸素事変の発生条件: 栄養塩の流入率増大と浅海域の無酸素化の重要性 (東京大学大学院) ○尾崎和海・田近英一

11:45-12:00 1E11 (05-11)

大規模火成岩岩石区(LIPs)と海洋無酸素事変(OAE)とのリンケージ: 堆積岩の Os, Pb 同位体による制約 (海洋研究開発機構) ○鈴木勝彦・黒田潤一郎・谷水雅治・大河内直彦

12:00-12:15 1E12 (05-12)

カナダ・ヒューロニアン累層群に記録された Os 同位体比が示唆する原生代初期水河期直後における酸素濃度の上昇 (1 東京大学・2 海洋研究開発機構・3 千葉工業大学) ○後藤孝介¹・関根康人¹・鈴木勝彦²・田近英一¹・仙田量子²・野崎達生²・多田隆治¹・後藤和久³・山本信治¹

9月7日(第1日)午後

A会場(A201)

B会場(A203)

セッション 16. 火成岩の地球化学

コンピーナー:佐野貴司(国立科学博物館)・三好雅也(京都大学)

14:00-14:15 1A13 (16-01)

海洋地殻を構成する噴出岩, 貫入岩, はんれい岩の比較:高速拡大軸下のマグマシステムの解明 (1 国立科学博物館・2 海洋研究開発機構・3 産業技術総合研究所) ○佐野貴司¹・柵山徹也²・山崎徹³

14:15-14:40 1A14 (16-02 招待)

太古代の海底熱水変質作用が示唆する当時の大気-海洋環境 (1 海洋研究開発機構・2 東京大学) ○中村謙太郎¹・高井研¹・加藤泰浩²

14:40-15:00 1A15 (16-03 招待)

玄武岩を利用した CO₂ の地中隔離 -実験的アプローチによる CO₂ の固定効率の推計- (1 東京大学・2 海洋研究開発機構) ○高谷雄太郎¹・中村謙太郎²・加藤泰浩¹

15:00-15:15 1A16 (16-04 招待)

ホットスポット火山のマグマソースとその不均質性; フレンチポリネシア海底調査より (1 海洋研究開発機構・2 フランス海洋研究所) ○羽生毅¹・ドッソローレ²・谷健一郎¹

15:15-15:30 1A17 (16-05 招待)

ロイヒ溶岩の硫黄同位体分別過程 (1 京都大学大学院・2 ウッズホール海洋研究所) ○山本順司¹・Shimizu Nobumichi²・Kurz Mark²

15:30-15:45 1A18 (16-06)

北西太平洋のブチスポット火山に産するアルカリ玄武岩の地球化学 (1 早稲田大学・2 東北大学・3 東京大学・4 海洋研究開発機構) ○町田嗣樹¹・平野直人²・加藤泰浩³・阿部なつ江⁴

15:45-16:00 1A19 (16-07 招待)

プレート収束域の海洋底火山岩ガラスの Li-Sr-Nd-He 同位体組成 (1 海洋研究開発機構・2 東京大学) ○西尾嘉朗¹・佐野有司²

16:00-16:15 1A20 (16-08 招待)

島弧マグマの地球化学的マッピング:スラブ起源流体の挙動解明 (東京工業大学) ○中村仁美・岩森光

16:15-16:30 1A21 (16-09)

ホウ素を用いたスラブ由来流体の追跡-フィリピン海プレートの沈み込みと九州の火山活動- (1 京都大学・2 国立科学博物館・3 熊本大学・4 立正大学) ○三好雅也¹・佐野貴司²・長谷中利昭³・福岡孝昭⁴

<休憩>

16:40-16:55 1A22 (16-10 招待)

阿蘇火山における先カルデラから後カルデラ期火山岩の同位体比および全岩化学組成の時間変化 (1 熊本学園大学・2 筑波大学・3 京都大学) ○新村太郎¹・荒川洋二²・三好雅也³・柴田知之³

16:55-17:10 1A23 (16-11)

噴火様式の違いを反映した斜長石の含水量バリエーション-伊豆大島火山1986年噴火の場合- (1 東京工業大学・2 京都大学・3 東京大学・4 産業技術総合研究所) ○浜田盛久¹・川本竜彦²・藤井敏嗣³・高橋栄一¹・斉藤元治⁴

17:10-17:25 1A24 (16-12 招待)

新生代ユーラシア大陸東縁部背弧域の上部マントル:北西九州と韓国玄武岩からの岩石学的制約 (1 海洋研究開発機構・2 東京大学大学院・3 東京大学・4 京都大学・5 長崎大学・6 岡山理科大学) ○柵山徹也¹・角野浩史²・中井俊一³・芳川雅子⁴・柴田知之⁴・長岡信治⁵・板谷徹丸⁶・常青¹・宮崎隆¹・高橋俊郎¹・平原由香¹・小澤一仁²

17:25-17:45 1A25 (16-13 招待)

火成岩の化学・同位体組成からどのような地球深部の化学的環境を知り得るか?-キンパーライトを例として (東京大学地震研究所) ○兼岡一郎

17:45-18:00 1A26 (16-14 招待)

フラックスフリーフュージョン法による花崗岩の酸分解 (海洋研究開発機構) ○清水健二・常青・中村謙太郎

18:00-18:15 1A27 (16-15)

長崎県野母崎東部に産する花崗岩質構造岩塊のジルコン U-Pb 年代 (1 国立科学博物館・2 国立極地研究所) ○堤之恭¹・堀江憲路²・白石和行²・横山一己¹

セッション 2. 放射性廃棄物と地球化学

コンピーナー:日高洋(広島大学)・大貫敏彦(日本原子力研究開発機構)・吉田英一(名古屋大学)

14:00-14:15 1B08 (02-08)

実構造物中のコンクリートの中性化における元素移動 (名古屋大学) ○南雅代・吉田英一・浅原良浩・丸山一平

14:15-14:45 1B09 (02-09 招待)

NUMO2010年技術レポートの取りまとめに向けた取り組みと地球化学への期待 (原子力発電環境整備機構) ○石黒勝彦

14:45-15:00 1B10 (02-10)

歩道放射線の多様性と天然放射線通路標識(Radio Guide Way)の提案 (1 名古屋大学年代測定総合研究センター・2 名古屋大学) ○田中剛¹・片岡良輔²

15:00-15:15 1B11 (02-11)

高アルカリ地下水を対象とした放射性廃棄物の安定地層処分のためのナチュラアナログ研究 (1 慶応義塾大学・2 財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター) ○徳井佑樹¹・鹿園直建¹・山川稔²・藤井直樹²

15:15-15:30 1B12 (02-12)

バゴンベ天然原子炉上部に存在するジルコンの希ガス同位体組成 (1 総合地球環境学研究所・2 東京大学・3 広島大学) ○菊池麻希子¹・長尾敬介²・馬上謙一²・日高洋³

15:30-15:45 1B13 (02-13)

天然原子炉における高核分裂生成収率核種の長期的挙動 (広島大学) ○日高洋

9月7日(第1日)午後

C会場(A204)

D会場(A205)

セッション 7. 現世の有機物、微生物、生態系の地球化学的動態と過去の生命史の解明
コンピーナー: 高野淑識(海洋研究開発機構)・山中寿朗(岡山大学)・大庭雅寛(東北大学)

14:00-14:15 1C08 (07-01)

有機地球化学的手法による、南中国のプレカンブリアン・カンブリアン境界近傍の環境変動に関する研究(東北大学)○菊池みのり・海保邦夫・大庭雅寛

14:15-14:30 1C09 (07-02)

セノマニアン期末東部北大西洋の古環境解析: 有孔虫絶滅と海洋無酸素事変(1 東北大学、2 グラナダ大学、3 ラトガース大学)○大庭雅寛¹・海保邦夫¹・岡部高志¹・ラモルダ マルコス A.²・ライト ジェームズ D.³

14:30-14:45 1C10 (07-03)

地層中におけるビニルポルフィリンの反応挙動の解明(1 筑波大学大学院、2 筑波大学、3 福岡工業大学)○朝比奈健太¹・熊谷現¹・浅野純也¹・小川洋平²・三田肇³・野本信也²

14:45-15:00 1C11 (07-04)

南極スカルプスネス露岩地域の淡水湖・塩湖堆積物のバイオマーカー分析による古環境変動の復元(1 北海道大学、2 海洋研究開発機構)○竹田真佑美¹・沢田健¹・高野淑識²

15:00-15:15 1C12 (07-05)

海底堆積物中に棲息する難培養性アーキアの Lipdomics(海洋研究開発機構)○高野淑識・カ石嘉人・大河内直彦

15:15-15:35 1C13 (07-06 招待)

海洋堆積物中のホバンポリオール起源について(北海道大学)○齋藤裕之

15:35-15:55 1C14 (07-07 招待)

有明海底質中のシアノバクテリア由来肝臓毒マイクロシステンの微量分布と諫早湾調整池排水トレーサーとしての可能性(熊本保健科学大学)○高橋徹

セッション 12. 水圏環境地球化学

コンピーナー: 板井啓明(愛媛大学)・高橋嘉夫(広島大学)

14:00-14:15 1D13 (12-13)

大阪府北河内地区の水銀検出井戸と断層との関係(大阪市立大学)○益田晴恵・松井敬介・岡林克樹・前田俊介・吉岡秀憲

14:15-14:30 1D14 (12-14)

バングラデシュ西部シャムタ村の地下水ヒ素濃度を支配している鉄鉱物相の解析(1 広島大学大学院、2 愛媛大学)○石橋拓也¹・高橋嘉夫¹・板井啓明²

14:30-14:45 1D15 (12-15)

SF₆(六フッ化硫黄)を用いた黒部扇状地地下水の滞留時間推定(1 富山大学、2 株式会社 地球科学研究所)○櫛渕みちる¹・張勁¹・浅井和由²

14:45-15:00 1D16 (12-16)

北西太平洋海山域における海水起源マンガングラソの成長過程と組成変動(1 高知大学、2 東京大学大学院、3 広島大学大学院、4 ニュージーランド地質核科学研究所)○臼井朗¹・佐藤久晃¹・田中真理子¹・浦辺徹²・得丸絢加²・高橋嘉夫³・坂口綾³・杉山敏基³・グラハム イアン⁴

15:00-15:15 1D17 (12-17)

西部北太平洋における生物活性微量元素の分布と動態(京都大学)○ヴェーティ・ジェウ・フォン・河野友浩・宗林由樹

<休憩>

15:25-15:40 1D18 (12-18)

炭酸塩(CaCO₃)を用いた水溶液からのホウ素除去実験(慶應義塾大学大学院)○木次理美・鹿園直建

15:40-15:55 1D19 (12-19)

固液両相のスペシエーション分析に基づくタリウムの水-土壌系での分配挙動(広島大学)○渡辺勇輔・嶋本洋子・高橋嘉夫

15:55-16:10 1D20 (12-20)

X線吸収微細構造法を用いた土壌中 Cr(VI)の価数変化に関する研究(東京大学)○堀まゆみ・小豆川勝見・松尾基之

16:10-16:25 1D21 (12-21)

大陸からの長距離移流による酸性沈着が石灰岩の溶解に及ぼす影響(1 九州大学、2 秋吉台科学博物館、3 西海市役所)○内田章太¹・配川武彦²・諏訪勝郎³・栗崎弘輔¹・吉村和久¹

16:25-16:40 1D22 (12-22)

長距離輸送途上での黄砂中の鉄化学種の変化と鉄の水溶解性(広島大学)○高橋嘉夫・東将之・古川丈真

16:40-17:00 1D23 (12-23 招待)

軟X線吸収分光法の最前線 -実環境における高分解能・高感度・局所分析を目指して-(財団法人高輝度光科学研究センター)○為則雄祐

9月7日(第1日) 午後

E会場 (A202)

セッション 5. 古気候・古環境解析の地球化学

コンピーナー: 入野智久(北海道大学)

14:00-14:15 1E13 (05-13)

マイクロ X 線 CT 技術による有孔虫骨格破片を用いた海底堆積物中の炭酸塩溶解定量法の開発 (1 海洋研究開発機構・2 東北大学総合学術博物館・3 有限会社ホワイトラビット・4 北海道大学大学院・5 東京大学大学院) ○木元克典¹・佐々木理²・鹿納晴尚²・岩下智洋³・入野智久⁴・多田隆治⁵

14:15-14:30 1E14 (05-14)

地球化学分析のための極微量粉体回収法 ~ 炭酸塩の酸素・炭素同位体比分析を例に~ (海洋研究開発機構) ○坂井三郎

14:30-14:45 1E15 (05-15)

鍾乳石の希土類パターンの規制要因と古環境推定 (1 成功大学・2 高知コア研究所・3 マリン・ワーク・ジャパン・4 台湾大学・5 九州大学) ○堀真子¹・石川剛志²・永石一弥³・林可⁴・黄國芳¹・游鎮烽¹・狩野彰宏⁵・沈川洲⁴

14:45-15:00 1E16 (05-16)

山口県秋吉台の洞内滴下水中の Mg/Ca 比の季節変動 (1 九州大学・2 秋吉台科学博物館) ○栗崎弘輔¹・中尾武史¹・藤川将之²・吉村和久¹

15:00-15:15 1E17 (05-17)

淡水二枚貝イケテウガイの殻の Sr/Ca 比に影響を与える要因 (1 慶應義塾大学・2 東京大学・3 産業技術総合研究所) ○泉田悠人¹・吉村寿紘²・石村豊穂³・中島礼³・鹿園直建¹・鈴木淳³・川幡穂高²

15:15-15:30 1E18 (05-18)

淡水性長寿二枚貝カワシンジュガイ殻の古環境指標としての評価 (1 北海道大学・2 北海道大学大学院・3 東京大学) ○渡邊剛¹・香本佳彦²・白井厚太郎³

15:30-15:50 1E19 (05-19 招待)

造礁サンゴ骨格の Na/Ca 比の変動要因および骨格内での Na の存在状態 (1 無所属・2 名古屋工業大学・3 名古屋大学) ○三ツ口文裕¹・内田哲男²・松本英二³

<休憩>

16:00-16:15 1E20 (05-20)

小笠原諸島父島と琉球列島石垣島のサンゴ骨格から復元された 20 世紀最初期の気候イベント (1 東京大学・2 産業技術総合研究所) 三島真理¹・○鈴木淳²・石村豊穂²・川幡穂高¹

16:15-16:30 1E21 (05-21)

鹿児島県甌島列島に生息する造礁性サンゴ骨格中の過去 68 年間の酸素・炭素安定同位体比解析 (1 北海道大学・2 高知大学・3 国立環境研究所) ○河村卓¹・渡邊剛¹・村山雅史²・山野博哉³

16:30-16:45 1E22 (05-22)

高知県竜串湾に生息する造礁性サンゴ骨格の窒素同位体比組成に与える黒潮流量の影響 (1 北海道大学・2 黒潮生物研究財団・3 国立環境研究所) ○山崎敦子¹・渡邊剛¹・角皆潤¹・中地シュウ²・山野博哉³・岩瀬文人²

16:45-17:00 1E23 (05-23)

和歌山県串本の温帯域造礁性サンゴ骨格の酸素・炭素安定同位体比の変動 (1 北海道大学・2 東京工業大学・3 名古屋大学・4 串本海中公園センター) 井笹純平¹・渡邊剛¹・中村隆志²・阿部理³・○野村恵一⁴

17:00-17:15 1E24 (05-24)

鳥羽市神島石灰岩体の堆積年代と Sr 同位体組成 (1 名古屋大学大学院・2 名古屋大学年代測定総合研究センター) ○鈴木和博¹・浅原良浩¹・三村耕一¹・田中剛²

9月7日(第1日)ポスターセッション
P会場(スポーツキューブ1階)、コアタイム 13:00~14:00

セッション 15. Geofluids: 地球内部流体とその役割

1P01 (15-P01)

熔融起源のシュードタキライトにおける微量元素・同位体分析 (1 大阪大学大学院² 海洋研究開発機構³ マリン・ワーク・ジャパン) ○本多剛¹・石川剛志²・廣野哲朗¹・向吉秀樹³

1P02 (15-P02)

高温高压条件下の水の構造変化(京都大学理学研究科) ○熊谷仁孝

セッション 16. 火成岩の地球化学

1P03 (16-P01)

西南グリーンランド Itsaq 片麻岩複合岩体における始生代の火成活動の年代学 (1 広島大学² ウーロンゴン大学) ○神市智之¹・日高洋¹・ナットマンアラン²

1P04 (16-P02)

東南極, 明るい岬に分布する花崗岩質岩の岩石学 (立正大学) ○川野良信

1P05 (16-P03)

JAMSTEC 深海底岩石サンプルデータベース「GANSEKI」(1 海洋研究開発機構² マリン・ワーク・ジャパン) ○市山祐司¹・相馬伸介²・華房康憲¹・田村芳彦¹・川畑博¹・布川章子¹

1P06 (16-P04)

国立科学博物館統合データベース岩石鉱物(国立科学博物館) ○横山一己¹・松原聡¹・宮脇律郎¹・佐野貴司¹・堤之恭

セッション 2. 放射性廃棄物と地球化学

1P07 (02-P01)

JAEA 東濃地科学センターにおける K-Ar 年代測定システムの現状と今後 (1 日本原子力研究開発機構² 京都大学) ○山崎誠子¹・山田国見¹・花室孝広¹・梅田浩司¹・田上高広²

1P08 (02-P02)

花崗岩中の酸化還元フロント形成に伴う元素の挙動 - 地下深部と地表の対比 - (名古屋大学) ○山本鋼志¹・赤川史典¹・吉田英一

1P09 (02-P03)

高レベル廃棄物処分における水理特性を考慮したナチュラルアナログ研究(東京都市大学大学院) ○入江寛和¹・本多照幸

1P10 (02-P04)

北海道幌延地域における断層帯の主要および微量元素の分布と挙動(東京都市大学大学院) ○鈴木孝太¹・本多照幸

1P11 (02-P05)

土岐花崗岩を対象とした水-岩石反応による微量元素の挙動に関する検討(東京都市大学大学院) ○萩原武司¹・本多照幸

1P12 (02-P06)

北海道幌延地域の稚内層硬質頁岩に含まれる He の同位体比とその空間分布(電力中央研究所) ○柏谷公希¹・中田弘太郎¹・長谷川琢磨

セッション 6. 地球化学と生理学の融合: 生体プロセスの研究から地球化学へ

1P13 (06-P01)

南中国 Weng'an 地域のエディアカラ紀の地層から産出する微化石の窒素同位体比分析 (1 東京工業大学² 東京大学³ 東京大学大気海洋研究所) ○岡田吉弘¹・小宮剛²・高畑直人³・佐野有司³・丸山茂徳¹

1P14 (06-P02)

微生物のアミノ酸窒素同位体組成: 生物地球化学研究の新技术 (1 東京大学² 海洋研究開発機構) ○山口保彦¹・高野淑識²・力石嘉人²・小川奈々子²・井町寛之²・菅寿美²・横山祐典¹・大河内直彦²

1P15 (06-P03)

兵庫県杉生新田の温泉中の微生物生態系と生物鉱化作用 (1 大阪市立大学理学研究科² 大阪市立大学生活科学研究科) ○磯山陽子¹・益田晴恵¹・前田俊介¹・西川禎一²・小宮透¹

セッション 7. 現世の有機物、微生物、生態系の地球化学的動態と過去の生命史の解明

1P16 (07-P01)

日本近海のメタン湧出点における嫌氣的メタン酸化古細菌の群集組成(東京大学大学院) ○荻原成騎

1P17 (07-P02)

耳石の同位体分析によるシーラカンスの生息水深推定 (1 東京工業大学² 海洋研究開発機構) ○和田亮一¹・坂井三郎²・二階堂雅人¹・相原光人¹・大河内直彦²・岡田典弘¹・山田桂太¹・吉田尚弘¹

1P18 (07-P03)

微量湿式分析による分子レベル同位体比の品質管理と確度向上: 特に Stable isotope probing 法の応用研究に向けて(海洋研究開発機構) ○高野淑識¹・力石嘉人²・大河内直彦

1P19 (07-P04)

パルス放電ヘリウムイオン化検出器(PDHID)による天然ガスの無機・有機成分同時測定(北海道大学) ○齋藤裕之¹・鈴木徳行

1P20 (07-P05)

河口域フミン酸の継続的観察と有効な評価方法の検討(九州大学大学院) ○池田大介¹・山内敬明¹・奈良岡浩

1P21 (07-P06)

北海道古第三紀亜歴青炭に含まれる気体成分の地球化学的特徴(北海道大学) ○高橋幸士¹・鈴木徳行¹・齋藤裕之¹・長谷川精¹・角皆潤

1P22 (07-P07)

堆積盆地における各種炭化水素の安定水素同位体組成の変化(北海道大学) ○鈴木徳行

セッション 12. 水圏環境地球化学

1P23 (12-P01)

愛媛県西条市市之川・加茂川の河川水・河床堆積物にみられる市之川鉱山の影響 (1 同志社大学大学院² 同志社大学³ 総合地球環境学研究所⁴ 西条市役所) ○田畑亜希子¹・横尾頼子²・中野孝教³・徳増実⁴

1P24 (12-P02)

ホウ素から見た熱水循環系-トルードスオフィオライト、キプロス- (1 東京大学² 海洋研究開発機構) ○松倉誠也¹・山岡香子¹・石川剛志²・川幡穂高¹

1P25 (12-P03)

日本海ガスハイドレート産出地域における間隙水中のヨウ素(¹²⁷I, ¹²⁹I)、臭素及び微量元素の深度分布 (1 学習院大学² 東京大学) ○安齋博哉¹・村松康行¹・松本良²・戸丸仁²・松崎浩之²

1P26 (12-P04)

加熱分離法による標準岩石中の Cl、Br、I 定量法の検討及び海底堆積物への応用 (1 学習院大学大学院² 学習院大学³ 東京大学大学院) ○関谷朋子¹・安齋博哉¹・村松康行²・松本良³・戸丸仁³

1P27 (12-P05)

ネパール・アンナプルナサーキットトレッキングルートの陸水-その水質組成と元素濃度 (1 中部大学² 愛知県衛生研究所) ○大沼章子¹・小池恭子²・伊藤徹²・加藤昌志¹

1P28 (12-P06)

二枚貝の特定部位を用いた沿岸域汚染指標の確立に向けて(名古屋大学) ○伊藤由喜¹・山本鋼志¹・林誠司

1P29 (12-P07)

群馬県赤城火山南部に分布する温泉の水質形成機構 (1 東京理科大学² 石油資源開発株式会社) ○大平孟¹・村松容一¹・早稲田周²

1P30 (12-P08)

ジュンガル盆地南部の泥火山に関する地球化学的研究 (1 広島大学² 北海道大学³ 中国科学院⁴ オタワ大学) ○中田亮一¹・高橋嘉夫¹・角皆潤²・鄭国東³・清水洋¹・服部恵子⁴

1P31 (12-P09)

クッチャロ湖及び周辺河川におけるメタンの動態(酪農学園大学) ○佐々木崇¹・大類壮央¹・吉田磨

1P32 (12-P10)

大阪湾における堆積物の化学組成 (1 名古屋大学・2 神戸大学) ○片岡良輔¹・山本鋼志¹・牛原康博²

1P33 (12-P11)

マンガンクラストへの金属フラックスの時間・空間変化 -北西太平洋・第5拓洋海山の例- (1 高知大学大学院・2 高知大学・3 ニュージーランド地質核科学研究所) ○佐藤久晃¹・臼井朗²・グラハム イアン³

1P34 (12-P12)

バングラデシュ・シヨナルガオの地下水涵養域におけるヒ素汚染地下水形成 (大阪市立大学大学院) ○前田俊介・益田晴恵

セッション 5. 古気候・古環境解析の地球化学

1P35 (05-P01)

北海道沙流川における河川水中懸濁粒子と河口域海底堆積物の主要元素組成 (1 北海道大学・2 産業技術総合研究所・3 金沢大学) ○入野智久¹・池原研²・長尾誠也³

1P36 (05-P02)

最終氷期最大期のグリーンランド古気温復元と海水分布の影響:水同位体大循環モデルを用いたシミュレーション (1 海洋研究開発機構・2 東京大学) ○大垣内るみ¹・阿部彩子²・末吉哲雄¹・栗田直幸¹

1P37 (05-P03)

古海藻試料を用いた北海道周辺の¹⁴C ローカル海洋リザーバー効果の検討 (東京大学) ○宮入陽介・松崎浩之

1P38 (05-P04)

石英の ESR 信号強度と結晶化度を用いた揚子江流域の特徴づけ (1 東京大学大学院・2 東京大学大学院・3 南京大学・4 岡山理科大学) ○吉田知紘¹・多田隆治²・Zheng Hongbo³・豊田新⁴

1P39 (05-P05)

深海サンゴ骨格におけるMg同位体分別の温度依存性:新しい古水温指標 (1 東京大学・2 海洋研究開発機構・3 産業技術総合研究所・4 高知大学) ○吉村寿紘¹・谷水雅治²・井上麻夕里¹・鈴木淳³・岩崎望⁴・川幡穂高¹

1P40 (05-P06)

古生代 Sr 同位体比 minimum:古海山頂部石灰岩の連続記録 (1 熊本大学・2 東京大学) ○可児智美¹・小福田大輔²・磯崎行雄²

9月8日(第2日) 午前

A会場 (A201)

セッション 21. その他の地球化学

コンピーナー: 新正裕尚(東京経済大学)・平田岳史(京都大学)

9:30-9:45 2A01 (21-01)

地球化学図と地名との関連性 -水銀と「丹生」を例として- (名古屋大学)

○永峰康一郎・茅野琴乃

9:45-10:00 2A02 (21-02)

元素周期表による地球化学教育推進プロジェクト (愛知教育大学) ○佐々田俊夫

10:00-10:15 2A03 (21-03)

元素・同位体分析を目的とした液中レーザーアブレーション法(LAL)の開発 (1 東京工業大学・2 京都大学) ○岡林識起¹・横山隆臣²・横山哲也¹・平田岳史²

10:15-10:30 2A04 (21-04)

ガルバノメトリック光学系を用いたレーザーアブレーション-ICP 質量分析法による高感度元素分析 (1 京都大学大学院・2 海洋研究開発機構・3 産業技術総合研究所) ○平田岳史¹・横山隆臣¹・鈴木敏弘²・昆慶明³

10:30-10:45 2A05 (21-05)

親鉄性元素分析のための金属質標準物質の合成 (1 京都大学大学院・2 東京工業大学大学院・3 海洋研究開発機構) ○横山隆臣¹・今井崇暢²・横山哲也²・高橋栄一²・鈴木敏弘³・竹山雅夫²・平田岳史¹

10:45-11:00 2A06 (21-06)

飛行時間型二次イオン質量分析法(TOF-SIMS)による土器残存有機物を用いた古食性復元 (1 名古屋大学・2 国際基督教大学・3 弘前大学) ○宮田佳樹¹・斉藤香織¹・堀内晶子²・南雅代¹・上條信彦³・福島和彦¹・中村俊夫¹

11:00-11:15 2A07 (21-07)

地球大気中の He, Ar 同位体比変化について (大阪大学) ○荒川裕子・松田准一

セッション 19. 固体地球化学(全般)

コンピーナー: 平田岳史(京都大学)・新正裕尚(東京経済大学)

11:15-11:30 2A08 (19-01)

電解研磨による希ガス用質量分析計低ブランク化の試みと岡山大学における全希ガス分析及び K-Ar 年代測定の現状 (岡山大学) ○宮川千絵・松本拓也

11:30-11:45 2A09 (19-02)

逐次溶解法を用いた岩石標準試料中の元素の存在形態に関する研究 (産業技術総合研究所) ○久保田蘭・太田充恒・今井登

9月8日(第2日) 午前

C 会場 (A204)

D 会場 (A205)

セッション 4. 南太平洋-パタゴニア地域の地球科学総合研究
コンピーナー: 折橋裕二(東京大学地震研究所)・原田尚美(海洋研究
開発機構)・阿部なつ江(海洋研究開発機構)・安間了(筑波大学)

セッション 20. 大気水圏地球化学(全般)
コンピーナー: 大隅多加志(電力中央研究所)

9:00-9:15 2C01 (04-01)

南太平洋及び沈み込み帯における地質学・地球物理学的研究 ならびに
チリ沖における古海洋環境変動復元研究「みらい」MR08-06 航海概要 (1
海洋研究開発機構・2 コンセプション大学・3 筑波大学・4 東京大学・5 東京工
業大学) ○原田尚美¹・阿部なつ江¹・Lange Carina²・安間了³・折橋裕二⁴・
岩森光⁵

10:00-10:15 2D01 (20-01)

凝集が引き起こす沈降速度と溶解速度の変化による、沈降粒子中の希土
類元素組成の体系化 (1 九州大学大学院理学研究院・2 理化学研究所) ○
赤木右¹・本郷やよい²・高橋孝三¹

9:15-9:30 2C02 (04-02)

マゼラン海峡堆積物に記録された過去 13,000 年間の全有機炭素・全窒素
フラックス変動 (1 筑波大学・2 海洋研究開発機構・3 コンセプション大学・4
放射線医学総合研究所・5 山形大学) ○福田美保¹・原田尚美²・佐藤都²・
Carina B. Lange³・阿波根直一²・Silvio Pantoja³・川上創²・青野辰雄⁴・本山
功⁵

10:15-10:30 2D02 (20-02)

駿河湾における円石藻の出現特性 (東海大学) ○萩原直樹・千賀康弘・
仁木将人・杉本隆成

9:30-9:45 2C03 (04-03)

南太平洋における浮遊性有孔虫の遺伝的多様性 (1 東北大学・2 海洋研究
開発機構) ○倉沢篤史¹・土屋正史²・豊福高志²・北里洋²・西弘嗣¹

10:30-10:45 2D03 (20-03)

日本海側地点(長崎県松浦市)における微量元素の乾性沈着フラックスとそ
の変動要因 (1 静岡県立大学・2 電力中央研究所) ○坂田昌弘¹・朝倉一雄²

9:45-10:00 2C04 (04-04)

チリ海溝とトンガ海溝沖のプチスポット火山 (1 東北大学・2 早稲田大学・3 海
洋研究開発機構) ○平野直人¹・町田嗣樹²・阿部なつ江³

10:45-11:00 2D04 (20-04)

高知市中心部における降水の化学的特徴 (高知女子大学) ○一色健司

10:00-10:15 2C05 (04-05)

南米パタゴニア溶岩台地のアルカリ玄武岩とマントル捕獲岩の希ガス同位
体比 (1 東京大学・2 リオデジャネイロ州立大・3 神奈川県立生命の星・地球
博物館・4 パタゴニア国立大・5 リオグラン・スル連邦大学・6 筑波大学) ○
角野浩史¹・折橋裕二¹・元木昭寿²・平田大二³・ハラミ ミジェル⁴・コンセ
ション ロムロ⁵・安間了⁶・長尾敬介¹

11:00-11:15 2D05 (20-05)

環境¹⁴C濃度の経年および場所変動: 植物に固定された炭素の¹⁴C濃度解
析(2) (名古屋大学年代測定総合研究センター) ○中村俊夫・太田友子・南
雅代

10:15-10:30 2C06 (04-06)

人工衛星搭載 ASTER センサを用いたチリ共和国 Viedma 火山における
SiO₂ 量推定 (1(財)資源・環境観測解析センター・2 東京大学地震研究所・3
神奈川県立博物館・4 SERNAGEOMIN, Chile・5(株)ダイヤコンサルタント・6 筑
波大学) ○小林千明¹・折橋裕二²・平田大二³・ナランホ ホセ⁴・小林淳⁵・
安間了⁶

10:30-10:45 2C07 (04-07)

定常的な沈み込み帯から中央海嶺沈み込みに至る南部アンデス弧(SVZ)
火山岩類の化学組成の変遷 (1 東京大学・2 東京経済大学・3 チリ鉱山局・4
リオデジャネイロ州立大学・5 筑波大学) ○折橋裕二¹・新正裕尚²・ナランホ
ホセ³・元木昭寿⁴・安間了⁵

<休憩>

10:55-11:10 2C08 (04-08)

中央海嶺沈み込みに伴う花崗岩の地球科学的特徴 (1 産業技術総合研究
所・2 東京大学・3 筑波大学・4 京都大学・5 東京工業大学) ○昆慶明¹・小宮
剛²・安間了³・平田岳史⁴・丸山茂徳⁵

11:10-11:25 2C09 (04-09)

海嶺沈み込みと大陸地殻の成長: チリ海嶺沈み込み帯の例 (1 筑波大学・2
総合地球環境学研究所・3 東京大学) 安間了¹・○申ギチヨル²・折橋裕二³・
中野孝教²

11:25-11:45 2C10 (04-10 招待)

長期観測型海底地震計を用いたチリ三重会合点付近における地震観測
(1 東京大学・2 海洋研究開発機構・3 コンセプション大学・4 東京工業大学) ○
篠原雅尚¹・山田知朗¹・杉岡裕子²・伊藤亜妃²・ミラー マシュー³・一瀬建日¹・
パタイユ クラウス³・岩森光⁴

11:45-12:00 2C11 (04-11)

中央インド洋(15-18° S)の中央海嶺軸産玄武岩の希ガス同位体組成 (1 岡
山大学・2 東京大学・3 新潟大学大学院・4 早稲田大学) ○松本拓也¹・折橋
裕二²・宮川千絵¹・根尾夏紀³・町田嗣樹⁴・玉木賢策²

12:00-12:20 2C12 (04-12 招待)

中央インド洋海嶺で第3, 第4の熱水活動域を発見 (1 海洋研究開発機構・
2 高知大学・3 東京大学) ○川口慎介¹・中村謙太郎¹・高井研¹・野口拓郎²・
折橋裕二³・佐野有司³・玉木賢策³

9月8日(第2日) 午前

E会場 (A202)

セッション 3. 宇宙地球有機物とアストロバイオロジー

コンピーナー: 小林憲正(横浜国立大学)・三田肇(福岡工業大学)

9:00-9:20 2E01 (03-01 招待)

地球外物質の炭素と水: 同位体組成と化学進化 (九州大学) ○奈良岡浩

9:20-9:40 2E02 (03-02 招待)

母天体上の衝撃作用がおよぼす、隕石有機物のユニークな構造特徴と同位体組成 (1 大阪大学・2 カーネギー研究所・3 ローレンスバークレー国立研究所) ○ 藪田ひかる^{1,2}・アレクサンダー コーネル²・フォーグル マリリン²・キルコイン デイビッド³・コーディ ジョージ²

9:40-10:00 2E03 (03-03 招待)

カイラリティーと化学進化 (神戸大学) ○中川和道

10:00-10:20 2E04 (03-04 招待)

宇宙空間の円偏光およびスピン偏極電子放射と生命ホモキラリティ起源 (NTT) ○高橋淳一

10:20-10:40 2E05 (03-05 招待)

国際宇宙ステーションと火星における微生物探査 (東京薬科大学) ○山岸明彦

10:40-11:00 2E06 (03-06 招待)

惑星間環境下での地球外有機物の変成と その地球への伝搬の評価 (1 横浜国立大学・2 福岡工業大学・3 東京薬科大学・4 宇宙航空研究開発機構) ○小林憲正¹・伏見英彦¹・Sarker Palash Kumar¹・小野恵介¹・大林由美子¹・金子竹男¹・三田肇²・山岸明彦³・たんぼぼ WG⁴

<休憩>

11:10-11:25 2E07 (03-07)

たんぼぼ捕獲粒子の有機物分析にむけた超高感度アミノ酸分析法の開発 (1 福岡工業大学・2 九州大学・3 横浜国立大学・4 大阪大学・5 長岡技術大学・6 兵庫県立大学・7 会津大学・8 東京薬科大学・9 宇宙航空研究開発機構) ○三田肇¹・百瀬恭子¹・浜瀬健司²・三次百合香²・小野恵介³・Sarker Palash Kumar³・小林憲正³・藪田ひかる⁴・今井栄一⁵・内海裕一⁶・奥平恭子⁷・河口優子⁸・横堀伸一⁸・山岸明彦⁸・たんぼぼ WG⁹

11:25-11:45 2E08 (03-08 招待)

隕石衝突による有機物生成の初期地球への影響 (1 東北大学・2 広島大学・3 物質材料研究機構) ○古川善博¹・関根利守²・大庭雅寛¹・掛川武¹・中沢弘基³

11:45-12:00 2E09 (03-09)

海洋堆積物の続成環境模擬実験における混合アミノ酸の重合と安定性 (東北大学) 高橋拓人・○大竹翼・古川喜博・掛川武

12:00-12:15 2E10 (03-10)

模擬原始大気実験生成物からの高温高圧環境下での有機物凝集体の生成 (1 横浜国立大学・2 海洋研究開発機構) ○栗原広成¹・平子智章¹・高野淑識²・大林由美子¹・金子竹男¹・小林憲正¹

9月8日(第2日)ポスターセッション
P会場(スポーツキューブ1階)、コアタイム 13:00~14:00

セッション 21. その他の地球化学

2P01 (21-P01)
長良川河口堰の底泥、水、けん濁物に含まれる重金属について(名古屋大学) ○蘇布達・上野振一郎・杉谷健一郎

2P02 (21-P02)
2012 国際地学オリンピック日本大会と地球化学(関東学園大学) ○瀧上豊

2P03 (21-P03)
キャピタリングダウン分光法による水同位体の分析(総合地球環境学研究所) ○丸山誠史・中野孝教

セッション 19. 固体地球化学(全般)

2P04 (19-P01)
福岡県東部、彦山川~城井川流域の地球化学図(福岡大学・九州大学大学院) ○柚原雅樹¹・伊藤吉宏¹・吉本紋²・眞崎求一¹

2P05 (19-P02)
希ガス質量分析を用いた極微量ハロゲンの検出(東京大学・学習院大学) ○齋藤健彦¹・角野浩史¹・馬上謙一¹・遠山知亜紀²・村松康行²・長尾敬介¹

2P06 (19-P03)
変成岩における物質移動量の定量的解析の新技术 一三波川帯 Garnet-amphibolite 岩体を例として(東京工業大学・東京大学) ○宇野正起¹・鳥海光弘²

2P07 (19-P04)
カンラン石、メージャライトガーネット/ペリドタイトメルト間における分配係数の圧力依存性(東京工業大学・海洋研究開発機構・京都大学) ○今井崇暢¹・高橋栄一¹・鈴木敏弘²・平田岳史³

セッション 4. 南太平洋~パタゴニア地域の地球科学総合研究

2P08 (04-P01)
パタゴニア北部、超背弧域に分布するソムンクラ台地玄武岩の成因: ウォズリアイトの脱水溶融起因説(東京大学・リオデジャネイロ州立大学・パタゴニア国立大学・筑波大学) ○折橋裕二¹・元木昭寿²・ハラミゲール³・角野浩史¹・長尾敬介¹・安間了⁴

2P09 (04-P02)
「みらい」JMR08-06 Leg1 海半球完全横断航海報告(海洋研究開発機構・産業技術総合研究所・東京工業大学・筑波大学・東北大学・東京大学) ○阿部なつ江¹・金松敏也¹・末次大輔¹・山崎俊嗣²・岩森光³・安間了⁴・平野直人⁵・折橋裕二⁶・原田尚美¹・富士原敏也¹

セッション 3. 宇宙地球有機物とアストロバイオロジー

2P10 (03-P01)
宇宙での微生物捕集実験における微生物解析方法・技術開発 有機物・微生物の宇宙曝露と宇宙塵・微生物の捕集実験(たんぼぼ)(東京薬科大学・玉川大学・横浜国立大学・JAXA/ISAS・長岡技術短期大学・千葉大学・会津大学) ○河口優子¹・杉野朋弘¹・楊印杰¹・吉村義隆²・辻亮²・小林憲正³・田端誠⁴・橋本博文⁴・今井栄一⁵・河合秀幸⁶・奥平恭子⁷・山下雅道⁴・矢野創⁴・横堀伸一¹・山岸明彦¹

2P11 (03-P02)
前生物的条件下で生成するポリアミノ酸の解析(福岡工業大学・筑波大学) ○桑原裕典¹・金丸博¹・三田肇¹・野本信也²

2P12 (03-P03)
粘土鉱物中でのポリリジン生産と生産した有機-無機複合体の物性(福岡工業大学) ○鶴山真美・宮元展義・三田肇

2P13 (03-P04)
アルカリ熱水中でのグリシン二量化速度における金属イオンの効果(大阪大学) ○坂田霞・藪田ひかる

セッション 20. 大気水圏地球化学(全般)

2P14 (20-P01)
鉛-210 堆積年代測定法による中国黄河沖の堆積速度(産業技術総合研究所・中国海洋大学) ○金井豊¹・斎藤文紀¹・楊作升²・范徳江²

2P15 (20-P02)
植物プランクトン中の微量金属濃度の測定法に関する検討(静岡県立大学大学院・静岡県立大学・東海大学) ○山田将喜¹・坂田昌弘²・光延聖²・千賀康弘³

2P16 (20-P03)
2010 年に東大阪市で捕集された黄砂粒子の個別粒子分析(近畿大学) ○坂本敦史・藤原司・中口謙・佐野到・向井苑生

2P17 (20-P04)
日本海沿岸における Pb-210 と Be-7 の時空間的変動(広島大学・金沢大学環日本海域環境研究センター・上智大学 理工学部) ○坂口綾¹・山本政儀²・廣瀬勝己³

2P18 (20-P05)
硫酸イオンの現場捕集濃縮法を用いた屋久島の溪流河川における硫黄同位体比の測定(滋賀県立大学・豊橋技術科学大学・九州大学・岡山大学大学院) ○土井崇史¹・永淵修¹・横田久里子²・吉村和久³・阿久根卓³・山中寿朗⁴・宮部俊輔⁴

2P19 (20-P06)
名古屋市における大気粉塵中の¹⁴C濃度(名古屋大学大学院・名古屋大学・名古屋市環境科学研究所) ○本庄浩司¹・中村俊夫²・池盛文数³・山神真紀子³

2P20 (20-P07)
南米ペルーの樹木に残る核実験の記録(静岡大学・東京大学・三井金属資源開発(株)) ○奥田啓太¹・和田秀樹¹・松崎浩之²・藤井昇³

セッション 17. 土壌・陸域生態系の物質循環

2P21 (17-P01)
森林土壌における微量ガス交換量の変動性(国立環境研究所) ○高橋善幸・梁乃申

2P22 (17-P02)
非耕作地の人為的管理が植物種構成と炭素分配に与える影響: 瀬戸内地域の圃場実験(農研機構・近畿中国四国農業研究センター) ○下田星児

2P23 (17-P03)
ハロゲン元素の土壌中濃度分析と土壌への蓄積メカニズムについて(学習院大学・東京大学・広島大学) ○伊藤絵理佳¹・村松康行¹・松崎浩之²・高橋嘉夫³・嶋本洋子³

2P24 (17-P04)
名古屋市藤前干潟の底質と底生微細藻類に関する地球化学的研究(名古屋大学) ○山本真里子・上野振一郎・杉谷健一郎

2P25 (17-P05)
波長分散型蛍光 X 線分析法による植物体化学組成分析の試み(名古屋大学) ○上野振一郎・杉谷健一郎・小野森弘

セッション 10. 大気微量成分の地球化学

2P26 (10-P01)
大気中酢酸の分子内炭素安定同位体比測定(東京工業大学・キリンホールディングス株式会社) ○菊池麻希子¹・山田桂太¹・服部良太²・吉田尚弘¹

2P27 (10-P02)
PTR-MS を用いたプロファイル法による DMS およびアセトンの大気-海洋間フラックス測定(北海道大学・国立環境研究所・岡山大学) ○亀山宗彦¹・吉田怜¹・谷本浩志²・猪俣敏²・岩田徹³

2P28 (10-P03)
2010 年春季に福岡、合肥で採取した黄砂粒子中の鉄の状態解析(九州大学・中国科学技術大学) ○金子誠¹・仲松有紀¹・古川雅志¹・Zhouqing Xie²・宇都宮聡¹

2P29 (10-P04)
都市大気微粒子中の鉄の化学状態(九州大学) ○仲松有紀・金子誠・古川雅志・西田千春・宇都宮聡

2P30 (10-P05)
北京北部マンジャンの大気エアロゾル中ジカルボン酸類の濃度と組成変化(北海道大学) ○何楠楠・河村公隆

2P31 (10-P06)

反芻動物起源メタンの安定同位体比の日変動と要因解明 (1 東京工業大学・2 畜産草地研究所) ○今藤泰輔¹・山田桂太¹・野中最子²・永西修²・樋口浩二²・真貝拓三²・小林洋介²・吉田尚弘¹

2P32 (10-P07)

成層圏硫黄循環の解析を目的としたアイソトポマーモデルの開発 (1 東京工業大学・2 名古屋大学・3 海洋研究開発機構) ○吉川知里¹・ダニエラ・セバスチアン¹・上野雄一郎¹・須藤健悟²・石島健太郎³・滝川雅之³・吉田尚弘¹

セッション 1. 同位体効果研究の地球化学への応用

2P33 (01-P01)

後期古代 Hamersley 地域頁岩中のイオウ同位体分別 (九州大学) ○森脇絵美・奈良岡浩

2P34 (01-P02)

P-TIMS を用いた微量ホウ素の同位体比精密分析 (1(株)マリン・ワーク・ジャパン・2 海洋研究開発機構) 永石一弥¹・松岡淳¹・石川剛志²

2P35 (01-P03)

多重検出型 ICP 質量分析計を用いた高精度ホウ素同位体比の迅速測定を試み (1(株)マリン・ワーク・ジャパン・2 海洋研究開発機構) ○永石一弥¹・谷水雅治²

2P36 (01-P04)

亜酸化窒素の光分解反応による同位体濃縮現象の理論的評価 (上智大学) ○遠藤多慶人・南部伸孝

2P37 (01-P05)

成層圏硫黄エアロゾル: アイソトポマーを用いた硫黄循環解析 (1 東京工業大学・2 コペンハーゲン大学) ○ダニエラ・セバスチアン¹・服部祥平¹・吉川知里¹・上野雄一郎¹・ジョンソン マット²・吉田尚弘¹

セッション 18. 宇宙惑星化学(全般)

2P38 (18-P01)

²⁴⁷Cm の半減期が Pb-Pb 年代測定に与える影響を評価 (東京大学) ○山田明憲・杉浦直治・比屋根肇

セッション 13. 初期太陽系円盤の宇宙化学

2P39 (13-P01)

炭素質コンドライト中の高温凝縮鉱物の Sm 同位体組成 (1 広島大学・2 国立科学博物館) ○池田直子¹・日高洋¹・米田成一²

セッション 14. 惑星・衛星・小惑星の宇宙化学

2P40 (14-P01)

多環芳香族炭化水素(PAH)の変質と同位体比変化 (九州大学) ○村井彰宏・奈良岡浩

2P41 (14-P02)

火星隕石 ALH84001 中のリン酸塩鉱物の U-Pb 年代 (1 東京大学大学院・2 東京大学大気海洋研究所) ○太田祥宏¹・高畑直人²・杉浦直治¹・佐野有司²

2P42 (14-P03)

月隕石 NWA4485 のジルコン U-Pb 年代からわかる月の KREEP マグマ活動期間 (1 千葉工業大学・2 国立極地研究所・3 海洋研究開発機構・4 ワシントン大学) ○荒井朋子¹・吉武美和²・富山隆将³・新原隆史²・横山立憲²・海田博司²・三澤啓司²・アービング トニー⁴

セッション 8. マントル物質の化学とダイナミクス

2P43 (08-P01)

ウダチナヤキンバーライト産ダイヤモンドの希ガス同位体組成 (1 東京大学・2 東京大学理学系研究科・3 ノボシビルスク岩石鉱物研究所) ○田子修也¹・角野浩史¹・松藤京介²・ゼドゲニゾフ ドミトリー³・鍵裕之²・長尾敬介¹

セッション 11. 水-鉱物界面の地球化学

2P44 (11-P01)

水深変化に伴うマンガンクラストの化学組成変動 (1 広島大学・2 高知大学) ○杉山敏基¹・坂口綾¹・高橋嘉夫¹・柏原輝彦¹・大石泰子¹・臼井朗²

9月8日(第2日)午後
アカデミックキューブ A101 会場

総会

14:00 - 15:30

受賞講演

15:45-16:05 2J01(奨励賞)

先進的表面錯体モデリングによる酸化物への陰イオン吸着挙動の予測

○福士圭介(金沢大学)

16:05-16:35 2J02(学会賞)

EPMA によるウラン、トリウム-鉛化学アイソクロン年代測定法の開発と鉱物粒子年代測定への展開

○鈴木和博(名古屋大学)

16:35-17:05 2J03(柴田賞)

海洋を介した物質循環と気候変化に関する研究

○角皆静男(北海道大学)

9月9日(第3日) 午前

A会場

セッション 17. 土壌・陸域生態系の物質循環

コンピーナー: 高橋善幸(国立環境研究所)・杉本敦子(北海道大学)

9:00-9:15 3A01 (17-01)

簡易渦集積法を用いた群落スケールでの森林のメタンフラックス計測 (1 大阪府立大学大学院・2 国立環境研究所) ○植山雅仁¹・鯉谷憲¹・西村渉¹・高橋善幸²

9:15-9:30 3A02 (17-02)

東シベリアタイガ林における大気水蒸気に対する蒸散の寄与 (1 北海道大学大学院環境科学院・2 北海道大学大学院地球環境科学研究院) ○上田哲大¹・杉本敦子²

9:30-9:45 3A03 (17-03)

鉛同位体組成による日本の穀物に含まれる鉛の起源推定 (財団法人日本穀物検定協会) ○有山薫・篠崎美由起

9:45-10:00 3A04 (17-04)

観測サイトの共有とネットワーク化による大気・陸域生態系間の温室効果気体/反応性気体の交換過程の観測研究の新たな展開 (1 国立環境研究所・2 農業環境技術研究所) ○高橋善幸¹・三枝信子¹・宮田明²

セッション 10. 大気微量成分の地球化学

コンピーナー: 谷本浩志(国立環境研究所)・斉藤拓也(国立環境研究所)・遠嶋康徳(国立環境研究所)・角皆潤(北海道大学)

10:00-10:30 3A05 (10-01 招待)

人工衛星による対流圏 NO₂・エアロゾルの観測 -東アジアにおけるトレンド解析に着目して- (海洋研究開発機構) ○入江仁士

10:30-11:00 3A06 (10-02 招待)

衛星観測を用いたアジアにおける大気化学研究 (国立環境研究所) ○谷本浩志

11:00-11:15 3A07 (10-03)

2009 年川崎大気粒子状物質中の ²¹⁰Pb、⁷Be 及び微量元素の定量とその挙動 (東京都市大学大学院) ○牧内秋恵・本多照幸

11:15-11:30 3A08 (10-04)

つくばにおける降下物中のトリウム同位体の長期挙動について (1 上智大学・2 気象研究所) ○廣瀬勝己¹・木川田喜一¹・五十嵐康人²

11:30-11:45 3A09 (10-05)

大気降下物のウラン同位体比の季節変動 (1 上智大学・2 東京工業大学) ○山内理恵子¹・木川田喜一¹・野村雅夫²・広瀬勝己¹・大井隆夫¹

11:45-12:00 3A10 (10-06)

南鳥島および与那国島における大気中ラドンの観測と輸送過程の解析 (1 気象大学校・2 気象研究所・3 産業技術総合研究所) ○和田晃¹・松枝秀和²・坪井一寛²・澤庸介²・村山昌平³・近藤裕昭³・田口彰一³

9月9日(第3日)午前

C会場(A204)

D会場(A205)

セッション 1. 同位体効果研究の地球化学への応用

コンピーナー: 武蔵正明(首都大学東京)・大井隆夫(上智大学)・野村雅夫(東京工業大学)

9:00-9:20 3C01 (01-01 招待)

平衡及び非平衡反応における硫黄の同位体効果と質量依存性の理論的研究(東北大学) ○大竹翼

9:20-9:35 3C02 (01-02)

ホウ酸とホウ酸イオン間におけるホウ素同位体効果の圧力依存性⁽¹⁾ 上智大学大学院² 首都大学東京³ 東京大学大学院⁴ 上智大学) ○市川寛之¹・武蔵正明²・松尾基之³・大井隆夫⁴

9:35-9:50 3C03 (01-03)

イオン交換平衡におけるアンチモン同位体効果研究⁽¹⁾ 首都大学東京² 上智大学³ 東京大学大学院) ○武蔵正明¹・市川寛之²・小豆川勝見³・松尾基之³・大井隆夫²

9:50-10:05 3C04 (01-04)

スズ同位体分析法の開発とその考古学的応用⁽¹⁾ 東京工業大学大学院² 東京大学地震研究所) ○山崎絵里香¹・中井俊一²

10:05-10:20 3C05 (01-05)

モリブデン同位体比に基づく古日本海酸化還元状態の変動⁽¹⁾ 京都大学² 高知大学) ○森島唯¹・西田真輔¹・中川裕介¹・宗林由樹¹・平田岳史¹・村山雅史²

10:20-10:35 3C06 (01-06)

後期始生代の堆積岩中に見られるイオウ質量非依存同位体分別(MIF-S)の特徴⁽¹⁾ 九州大学² ネバダ大学リノ校) ○奈良岡浩¹・森脇絵美¹・ポールソン サイモン²

10:35-10:55 3C07 (01-07 招待)

波長依存同位体効果と地球初期大気(東京工業大学) ○上野雄一郎・ダニエラチェ セバスチャン・吉田尚弘

10:55-11:15 3C08 (01-08 招待)

光解離反応における同位体分別に関する理論研究⁽¹⁾ 上智大学² 東京大学³ レブデフ物理研究所⁴ 新潟大学) ○南部伸孝¹・山田明憲²・井澤孝宏¹・小澤直斗¹・Kondorskiy Alexey D.³・小嶋稔²・徳江郁雄⁴

セッション 18. 宇宙惑星化学(全般)

コンピーナー: 横山哲也(東京工業大学)・荒井朋子(千葉工業大学)

11:15-11:30 3C09 (18-01)

CK コンドライトの全岩化学組成(首都大学東京大学院) ○伊佐美紀・海老原充

11:30-11:45 3C10 (18-02)

LLコンドライト中に含まれるアルカリ元素に富む岩片⁽¹⁾ 総合研究大学院大学² 国立極地研究所³ 岡山大学) ○横山立憲¹・三澤啓司²・岡野修³

11:45-12:00 3C11 (18-03)

次期月探査計画 SELENE-2 の着陸地検討状況⁽¹⁾ 千葉工業大学² 大阪大学³ 国立天文台⁴ 宇宙航空研究開発機構⁵ 早稲田大学⁶ 海洋研究開発機構⁷ 会津大学) ○荒井朋子¹・佐伯和人²・荒木博志³・石原吉明³・大竹真紀子⁴・唐牛謙⁵・小林直樹⁴・杉原孝充⁶・春山純一⁴・本田親寿⁷

セッション 8. マントル物質の化学とダイナミクス

コンピーナー: 下田玄(産業技術総合研究所)・小木曾哲(京都大学)・鈴木勝彦(海洋研究開発機構)

9:00-9:15 3D01 (08-01)

スラブ融解を起源とするマグマと EM1 と EM2 の関連(産業技術総合研究所) ○下田玄

9:15-9:30 3D02 (08-02)

アフター・マントルブルームの地球化学的特徴とジオダイナミクス(琉球大学) ○メシェジャ ダニエル・新城竜一

9:30-9:45 3D03 (08-03)

四万十帯砂岩中ジルコンの CHIME 年代分布が示唆する砕屑物の起源⁽¹⁾ 名古屋大学大学院² 名古屋大学年代測定総合研究センター) ○城森由佳¹・南雅代²・鈴木和博²・竹内誠¹

9:45-10:00 3D04 (08-04)

キンバーライトのハロゲン元素組成 -南アフリカ・中国・グリーンランド-⁽¹⁾ 学習院大学² 京都大学³ 東京大学) ○遠山知亜紀¹・村松康行¹・山本順司²・角野浩史³・中井俊一³・兼岡一郎³

セッション 9. ナノジオケミストリー・地球科学にまつわる基礎化学

コンピーナー: 鍵裕之(東京大学)・宇都宮聡(九州大学)・太田充恒(産業技術総合研究所)

10:00-10:30 3D05 (09-01 招待)

微生物による重元素の化学状態変化に伴う鉱物化⁽¹⁾ 日本原子力研究開発機構² 東京工科大学³ 九州大学) ○田中万也¹・鈴木義規²・姜明玉³・宇都宮聡³・大貫敏彦¹

10:30-10:45 3D06 (09-02)

酵母による Yb ナノ鉱物生成機構の解明⁽¹⁾ 九州大学理学府² 日本原子力研究開発機構) ○姜明玉¹・大貫敏彦²・田中万也²・香西直文²・上石瑛伍¹・宇都宮聡¹

10:45-11:15 3D07 (09-03 招待)

カルサイト溶解の各素過程に及ぼす生体分子の影響(東大院理) ○吉野徹・鍵裕之

11:15-11:30 3D08 (09-04)

アスパラギン酸添加による非晶質炭酸カルシウムの安定化(東京大学大学院) ○丸山浩司・吉野徹・鍵裕之

11:30-11:45 3D09 (09-05)

大気ナノ粒子の重金属化学種⁽¹⁾ 九州大学大学院² 九州大学³ 中国科学技術大学) ○宇都宮聡¹・仲松有紀²・金子誠²・古川雅志¹・Zhouqing Xie³

11:45-12:00 3D10 (09-06)

逐次溶解法と XAFS 法を用いた地質標準試料中の Cu の存在形態の研究⁽¹⁾ 産業技術総合研究所² 東京大学大学院) ○太田充恒¹・久保田蘭¹・鍵裕之²・石橋秀巳²

9月9日(第3日)午後

A会場(A201)

セッション 10. 大気微量成分の地球化学

コンピーナー: 谷本浩志(国立環境研究所)・斉藤拓也(国立環境研究所)・遠嶋康徳(国立環境研究所)・角皆潤(北海道大学)

13:00-13:15 3A11 (10-07)

北極海上及び海水中 ^{222}Rn 濃度を用いた大気-海洋間ガス交換速度の評価 (1 名古屋大学大学院・2 岐阜大学) ○廣内淳¹・大屋紀之¹・森泉純¹・山澤弘実¹・田阪茂樹²

13:15-13:30 3A12 (10-08)

西南日本北部九州脊振山頂にて採取された風送塵(黄砂)の Sr・Nd 同位体組成: 起源と季節変化の指標として (九州大学大学院) ○宮本知治・浜本礼子・柳喺

13:30-13:45 3A13 (10-09)

国内大気降下物に見出された濃縮ウランの起源に関する予察的考察 (1 上智大学大学院・2 上智大学・3 気象研究所・4 農業環境技術研究所・5 東京工業大学・6 モンゴル水文気象研究所) ○松本祐介¹・木川田喜一²・大井隆夫²・赤峰生朗¹・廣瀬勝己²・五十嵐康人³・藤原英司⁴・野村雅夫⁵・Jugder Dulam⁶

13:45-14:00 3A14 (10-10)

大気へのリウム同位体比: 時間的・空間的変動 (東京大学) ○佐野有司・古川由紀子・高畑直人

14:00-14:15 3A15 (10-11)

太平洋域における大気ポテンシャル酸素(APO)の季節変動および年平均値の空間分布の解析 (国立環境研究所) ○遠嶋康徳・峰島知芳・向井人史・町田敏暢・山岸洋明・野尻幸宏

14:15-14:30 3A16 (10-12)

定期貨物商船とキャピティリングダウン式分光計を用いた西部太平洋上大気中の CO_2 と CH_4 の連続観測 (国立環境研究所) ○奈良英樹・谷本浩志・野尻幸宏・向井人史・町田敏暢・遠嶋康徳

14:30-14:45 3A17 (10-13)

小笠原諸島・父島における海洋エアロゾルの長期観測: 2001-2009 年における低分子ジカルボン酸 (北海道大学) ○河村公隆・立花英里

14:45-15:00 3A18 (10-14)

韓国・済州島の大気エアロゾル中の陸源バイオマーカーの分子組成・安定同位体組成により明らかにされた東アジアの長距離大気輸送パターンの季節性 (1 北海道大学低温科学研究所・2 高麗大学) ○山本真也¹・河村公隆¹・Lee Meehye²

<休憩>

15:10-15:25 3A19 (10-15)

錯体化による有機エアロゾルの雲凝結核としての働きの抑制 (広島大学大学院) ○古川丈真・高橋嘉夫

15:25-15:40 3A20 (10-16)

2009 年度夏期富士山頂における低分子ジカルボン酸の組成と起源に関する研究 (1 北海道大学大学院・2 北海道大学低温科学研究所) ○藤原真太郎¹・河村公隆²・宮崎雄三²

15:40-15:55 3A21 (10-17)

スギからの揮発性有機化合物放出量推計 (1 財団法人石油産業活性化センター・2 静岡県立大学) ○松永壮¹・中塚誠次¹・望月智貴²・遠藤由希子²・大野卓夫²・谷晃²

15:55-16:10 3A22 (10-18)

北海道落石岬における硫化カルボニルの連続観測 (国立環境研究所) ○斉藤拓也・横内陽子・向井人史

16:10-16:40 3A23 (10-19 招待)

人工衛星による温室効果ガス観測 (1 千葉大学・2 東京大学) ○齋藤尚子¹・今須良一²

16:40-17:10 3A24 (10-20 招待)

静止衛星を用いた大気汚染観測の将来計画 (1 奈良女子大学・2 海洋研究開発機構・3 情報通信研究機構・4 茨城大学・5 アジア大気汚染研究センター) ○野口克行¹・入江仁士²・笠井康子³・北和之⁴・秋元肇⁵

9月9日(第3日)午後

C会場(A204)

D会場(A205)

セッション 18. 宇宙惑星化学(全般)

コンビナー: 荒井朋子(千葉工業大学)・横山哲也(東工業大学)

13:00-13:15 3C12 (18-04)

主成分元素組成から推定した隕石の ^{26}Al 生成量 (1 立正大学 2 東京大学)
○楠野葉瑠香 1 ・福岡孝昭 1 ・松崎浩之 2

13:15-13:30 3C13 (18-05)

RBT 04261 レルゾライト質シャーゴツタイトのウラン-鉛同位体年代 (1 総合研究大学院大学 2 国立極地研究所) ○新原隆史 1 ・三澤啓司 2 ・堀江憲路 2 ・海田博司 2

13:30-13:45 3C14 (18-06)

液体窒素温度での衝撃波によるベンゼンの反応 (名古屋大学) ○中村明博 1 ・三村耕一

セッション 13. 初期太陽系円盤の宇宙化学

コンビナー: 山下勝行(岡山大学)・伊藤正一(北海道大学)・橋省吾(東京大学)

13:45-14:00 3C15 (13-01)

初期太陽系形成時における ^{26}Al の不均質な分布 (1 学習院大学 2 ハワイ大 3 シカゴ大) ○巻出健太郎 1 ・永島一秀 2 ・クロット アレクサンダー 2 ・ハスゲイリー 2 ・ヘルブランド エリック 2 ・ガイド エリック 2 ・チェスラ フレッド 3 ・ヤング リー 3

14:00-14:15 3C16 (13-02)

始原隕石有機物中に見られた酸素同位体比異常 (1 大阪大学 2 東京大学 3 九州大学) ○橋爪光 1 ・高畑直人 2 ・奈良岡浩 3 ・佐野有司 2

14:15-14:30 3C17 (13-03)

ウイガノ CV3 隕石の Ca、Al、Fe に富む包有物 (1 総合地球環境学研究所 2 岡山大学) ○丸山誠史 1 ・富岡尚敬 2

14:30-14:45 3C18 (13-04)

Fluffy Type A CAI のメリライト結晶の累帯構造と酸素同位体組成の関係 (北海道大学) ○片山樹里・伊藤正一・坂本尚義

14:45-15:00 3C19 (13-05)

初期太陽系円盤の揮発性元素同位体進化 (東京大学) ○小嶋稔

<休憩>

15:10-15:25 3C20 (13-06)

惑星物質の同位体比に基づく遅い中性子捕獲反応の温度・密度条件への制約 (1 広島大学 2 日本原子力研究開発機構 3 国立天文台 4 東京大学) ○寺田健太郎 1 ・増田洋介 1 ・梶尾寛 1 ・岩本信之 2 ・青木和光 3 ・吉田敬 4

15:25-15:40 3C21 (13-07)

始原隕石の耐酸性残渣のオスミウム同位体異常から見た原始太陽系星雲と母天体プロセス (1 東京工業大学 2 カーネギー研究所 3 メリーランド大学) ○横山哲也 1 ・アレクサンダー コーネル 2 ・ウォーカー リチャード 3

15:40-15:55 3C22 (13-08)

ユレイライトの Mn-Cr 年代測定 (岡山大学) 山川茜・山下勝行・牧嶋昭夫・中村栄三

セッション 14. 惑星・衛星・小惑星の宇宙化学

コンビナー: 三浦弥生(東京大学)・橋省吾(東京大学)

15:55-16:10 3C23 (14-01)

ユレイライト隕石中に含まれている炭素質脈のラマン研究 (1 大阪大学 2 東京医科歯科大学) ○長島加奈 1 ・奈良雅之 2 ・松田准一 1

16:10-16:25 3C24 (14-02)

タングステン安定同位体組成からみた IIIAB 鉄隕石とパラサイトメイングループの関連性 (1 東京工業大学大学院 2 海洋研究開発機構 3 日本原子力研究開発機構 4 京都大学大学院) ○深海雄介 1 ・木村純一 2 ・入澤啓太 3 ・横山哲也 1 ・平田岳史 4

16:25-16:40 3C25 (14-03)

Apollo17 号ポリミクト角礫岩中のリン酸塩鉱物の起源と U-Pb 年代 (1 広島大学大学院 2 オープン大学) ○梶川岳彦 1 ・寺田健太郎 1 ・Anand Mahesh 2

16:40-16:55 3C26 (14-04)

南極ドーム Fuji 切削氷中から得た 12 万年前の宇宙塵の降下量 (1 立正大学 2 青山学院大学) ○三浦亜由美 1 ・斎藤裕子 2 ・田澤雄二 1 ・福岡孝昭 1

セッション 9. ナノジオケミストリー・地球科学にまつわる基礎化学

コンビナー: 鍵裕之(東京大学)・宇都宮聡(九州大学)・太田充恒(産業技術総合研究所)

13:00-13:15 3D11 (09-07)

ナノ粒子の結晶化速度理論の重要性と概要 (1 産業技術総合研究所 2 東京大学) ○月村勝宏 1 ・鈴木正哉 1 ・鈴木庸平 1 ・村上隆 2

13:15-13:30 3D12 (09-08)

ポートラングライト $\text{Ca}(\text{OH})_2$ の水素自己拡散の微視的機構 (1 京都大学 2 大阪市立大学) ○野口直樹 1 ・篠田圭司 2

13:30-13:45 3D13 (09-09)

高圧下における異極鉱の水素結合と結晶構造の変化 (東京大学大学院) ○山口祐・飯塚理子・小松一生・鍵裕之

13:45-14:00 3D14 (09-10)

ランタニド・二水素化物の標準生成エンタルピー: ヨルゲンセー川邊式から推定するラカー・パラメーター (名古屋大学) ○川邊岩夫

セッション 11. 水-鉱物界面の地球化学

コンビナー: 福士圭介(金沢大学)・光延聖(静岡県立大学)

14:00-14:15 3D15 (11-01)

蛍光分光 XAFS 法を用いたタングステンの海水-鉄マンガン酸化物間の固液分配および同位体比変動の考察 (広島大学大学院) ○柏原輝彦・高橋嘉夫

14:15-14:30 3D16 (11-02)

原油中の希土類元素(REE)存在度と水-原油間での REE の分配 (1 広島大学 2 中国科学院) ○中田亮一 1 ・高橋嘉夫 1 ・鄭国東 2 ・清水洋 1

14:30-14:50 3D17 (11-03 招待)

鉱物表面・水・水溶液系の分子シミュレーション (東京工業大学) ○河村雄行

14:50-15:05 3D18 (11-04)

シリカの溶解におよぼす有機化合物の影響: カテコール誘導体 (1 九州大学大学院 2 群衆化学工業 3 九州大学大学院) ○三谷駿介 1 ・江藤真由美 1 ・飯塚毅 2 ・岡上吉広 3 ・横山拓史 3

15:05-15:20 3D19 (11-05)

二酸化炭素地中貯留に向けた玄武岩の溶解実験 (1 慶應義塾大学大学院 2 東京大学大学院) ○片山智弘 1 ・鹿園直建 1 ・高谷雄太郎 2 ・加藤泰浩 2

<休憩>

15:30-15:45 3D20 (11-06)

動的光散乱法を用いた炭酸カルシウム結晶成長過程における粒径分布の観測 (1 防衛大学 2 東京大学) ○神谷奈津美 1 ・角森史昭 2 ・鍵裕之 2 ・野津憲治 2

15:45-16:00 3D21 (11-07)

カルサイトの結晶成長におけるアスパラギン酸の阻害メカニズムの解明 (東京大学大学院) ○吉野徹・鍵裕之

16:00-16:15 3D22 (11-08)

地下水中のヒ素およびセレンの移行過程にカルサイトとの共沈反応が与える影響 (広島大学大学院) ○横山由佳・高橋嘉夫

16:15-16:30 3D23 (11-09)

腐植物質-鉱物相互作用の金属イオン吸着への影響: EXAFS 法による吸着イオン局所構造からの考察 (東京大学) ○斎藤拓巳

16:30-16:45 3D24 (11-10)

Ferrihydrite の相転移反応によってアンチモンは結晶構造内部へ固定化される (1 静岡県立大学 2 広島大学) ○光延聖 1 ・村松千尋 1 ・高橋嘉夫 2 ・坂田昌弘 1

16:45-17:00 3D25 (11-11)

Extended Triple Layer Model によるフェリハイドライトへの硫酸吸着挙動の解析 (1 金沢大学大学院 2 金沢大学) ○青山和樹 1 ・福士圭介 2

17:00-17:15 3D26 (11-12)

セシウムおよびセレンの BIOS への吸着: 無機的に生成した水酸化鉄との比較 (1 広島大学大学院 2 静岡県立大学 3 海洋研究開発機構) ○菊池早希子 1 ・光延聖 2 ・牧田寛子 3 ・高橋嘉夫 1